

令和6年度 県立藤代紫水高等学校自己評価表

目指す学校像	・活力があり、生徒も教職員もともに幸せで楽しい学校 ・知・徳・体が調和した豊かな人間性を培い、民主的な社会に貢献し得る人間の育成を目指す学校 ・地域に貢献し、社会から信頼される生徒を育むために、一人一人の生徒に誠実に向き合う学校			
三つの方針	具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・知・徳・体が調和した豊かな人間性をもち、民主的な社会に貢献し得る人財の育成 ・地域に貢献し社会から信頼される人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・生徒の幅広い学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、大学進学から就職までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・学習、学校行事、部活動等に積極的に取り組むとともに、自分の進路実現に向け努力する生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
【昨年度の成果】 1 課題を持った生徒を支援していくために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を積極的に活用することで教育相談体制を強化することができた。 2 規範意識やモラルを高める取組を充実させた結果、挨拶・礼儀等の基本的な生活習慣は生徒に身につけさせることができた。	1 豊かな心を育む教育の推進と生徒支援の充実	・「チーム学校」として関係機関と連携し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を積極的に・効果的に活用することで、教育相談体制の強化を図る。 ・自己指導能力の育成のために挨拶指導を推進し、他者を思いやる意識の醸成を図るとともに、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ・面談等を通じて生徒一人一人の個性や特性を十分に理解する。生徒の実態を把握し、悩みや不安に寄り添った生徒指導体制づくりを行う。	A	

3 学校WEBページを充実させ、本校の教育を保護者や地域の方々に積極的に配信することで、その目的と成果を周知し、信頼される学校づくりの一助とすることができた。	2 探究的な学びをめざした授業改善とICT教育の推進	・問いの発見と解決に重点を置く、課題解決型の学習スタイルへの授業改善を一層促進する。 ・ICTを活用した個別最適な学びを確立する。 ・授業満足度（KPI）4段階中、平均3.0以上を目指す。 ・研究授業や相互授業参観を積極的に行い、授業改善や教科指導法に関する研究協議を実施していく。	A
【今年度の課題】 1 心を育む教育の推進と生徒指導の充実を図るために、昨年度の体制に加え、医療機関や中学校等を含めた外部の専門家との一層の連携強化に取り組む一方、校内の連絡・報告体制を整備することで迅速かつ適切な対応ができるようにする。	3 確かな学力の定着と自ら学ぶ姿勢の確立	・生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを構築する。 ・「個別最適な学び」・「協働的・探究的な学び」・反転学習等、ICTを活用した教育活動を推進する。 ・学習アプリの活用を促進する。 ・異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。	A
2 生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を支援し、家庭学習を促進するためにICTや学習アプリを活用した学習を推進することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るなど、授業改善に積極的に取り組む。 3 生徒一人一人が自らの意思と責任で	4 多様な進路希望に対応したキャリアデザイン形成	・生徒が自らの在り方・生き方を考え、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図ることで、生徒の自己実現を支援する。 ・キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進し、種々の分野で社会人として活躍・貢献できる力を育む。 ・ホームルーム等において、キャリア・パスポートの積極的な活用と充実を図る。	A

進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。特に教員志望の生徒に対して重点的に支援の方法を研究するなど、多様な進路希望に対応したキャリア教育を推進する。	5 生徒の自発的・自治的活動による学校行事や部活動、ボランティア活動等の充実	・生徒が自発的・自治的に活動できる環境づくりに努めるとともに、それらを通して生徒間の友人・仲間づくりを支援するために学校行事等を充実させる。 ・教職員や部活動指導員・外部指導者等による支援体制を整備し部活動の充実を図る。 ・生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化し、シティズンシップ教育を推進する。 ・自己有用感の育成を図り、ボランティア活動等の社会奉仕体験活動への参加を促していく。	A
	6 開かれた学校づくりの推進	・保護者や地域社会との連携を図り、学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、本校教育活動への理解を深めてもらう。 ・積極的に学校の取組や生徒の活動を発信するため、学校WEBページの充実やSNS等の充実を図る。 ・定期的に中学校訪問を行い、中学校との連携を深め、志願者の増加に努める。	B
	7 働き方改革の推進と職場環境の改善	・職員のウェルビーイング向上のため、超過勤務時間の縮減に努める。 ・ライフワークバランスを重視し、時差出勤制度等の各種制度の積極的な活用を図る。 ・複数顧問制の徹底等により、部活動運営方針の徹底を図る。 ・教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	B

	8 コンプライアンスの遵守	・厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ・教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を自覚するとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を律する。 ・教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育職公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A
--	---------------	--	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
------	-------	-------	----	-----------

国語	1 思考力・判断力・表現力の育成	・教材に応じて内容を要約させ、読解力・表現力を養成する。	A	A	・他者と協働したり、自分の考えを深めたりしたものを自分の言葉で発表する機会を作り、効果的な言語活動を行う。 ・漢字検定受検者数、合格者数を増やせるように、生徒への声かけや課外等を積極的に行う。
		・プリント等を活用し、文章の内容を的確に捉える思考力を育成する。	A		
		・他者の発表を聞き自分の意見と照らし合わせて、さらに考えを深める判断力を育成する。	B		
		・自分の意見を発表する機会を増やし、積極的に自分の言葉で表現する力を養成する。	B		
	2 基礎学力の向上・家庭学習の定着	・月に2回の漢字小テストを実施し、達成感を味わう活動を行う。	A		
		・提出物の徹底を図り、家庭学習の定着を図る。	A		
		・漢字や文法等を繰り返し学習することで、基礎的な知識の定着を図る。	A		
	3 資格取得の奨励	・授業において漢字練習の機会を与えるなど個別最適な学習を行う。	A		
		・2年次の一斉受験に向けて、1年次より漢字検定の受検に対する意識を醸成する。	B		
		・漢字検定の合格率向上のため、課外等の充実を図り、生徒を支援する。	A		

別紙様式 2 (高)

地 理 歴 史	1 基礎学力の定着	・授業内容を精選し、基礎的な知識・概念の定着を図る。	A	A	・学習内容を現代の国際問題等と関連づけて理解する授業を実施する。 ・科目間のつながりを意識し科目横断的な授業を実施する。
		・歴史科目においても地図ワーク等を利用し、地理的感覚を養う等科目横断的な授業を実施する。	B		
	2 民主主義の本質に関する理解の深化	・様々な時代・地域を学ぶ際に、国家の役割や民主主義について考える。	A		
	3 現代の国際的諸問題と関連づけた理解の深化	・新聞やニュース等を活用し、最新の国際問題と関連づけた授業展開をする。	B		
		・民族・文化の多様性を尊重する姿勢で様々な時代や地域を学び、自らも世界の中の一員であることを意識できるようにする。	A		
公 民	1 基礎学力の定着	・授業内容を精選し、基礎的な知識・概念の定着を図る。	A	A	・資料活用能力や合意形成能力を養う授業を実施する。
	2 事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力の育成	・協働的な学びによる意見交換や発表を通し、思考力・判断力・表現力を養う。	A		
		・資料読解やディスカッションを行い、資料活用能力を養う。	B		
	3 知識を実社会の理解に役立てた社会参画への姿勢の育成	・国家及び社会の形成者としての自己を意識できるように、生徒にとって身近な事例を取り上げる。	A		
		・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する。	B		
数 学	1 基礎学力の定着	・生徒の能力や実態を鑑みて、授業展開と教材を精査する。	B	A	・思考力、数学的な見方の能力の向上に注力できなかった。 ・次年度に向け、教材や指導法の研究充実。
		・各教科の内容との関連づけを意識させながら、基礎的な計算の練習を行う。	A		
	2 授業方法・内容の改善	・基礎的な事項の理解と定着を図るため、教員相互の授業参観を行い、指導方法の工夫と改善を図る。	A		
		・生徒それぞれの希望進路を考慮した上で、授業内容を改善する。	A		
	3 学習習慣の定着	・生徒の学習習慣の確立のため、定期的にノートや問題集等を提出させ、適切に評価する。	A		
		・長期休業時の課題の内容を授業やテストで確認・評価することにより、過程学習習慣の定着を図る。	B		
	4 数学的思考力・表現力の向上	・身近な事柄に関して、表やグラフ、数式等で表現し、数学的に考察し表現する力を養う。	A		

理 科	1 化学的な自然観の育成	・化学の基礎・基本的な知識の習得を図り、物事を科学的に探究する能力と態度を育成するために、化学に関する演示実験・生徒実験を行う。	A	A	・各科目で、生徒たちの基礎・基本的な知識の習得のため授業を構想することができた。 ・見方・考え方を意識した授業を実施するとともに、視聴覚教材 や I C T 機器を有効に活用したい。
		・個人の理解度に応じた指導内容を工夫し、より理解を深めるために、視聴覚教材 や I C T 機器を有効に活用する。	B		
	2 生物的な自然観の育成	・身近な自然の事物・事象を取り上げ、授業の課題設定を行うことで、生徒たちが 課題を持って学習に取り組むことができるようにする。	A		
		・授業ごとに振り返りの時間を設定し、メタ認知能力を育む。	A		
		・自然科学的な物事の見方・考え方を意識した授業を展開する。	B		
	3 物理的な自然観の育成	・自然現象を科学的に分析する営みを通して、事象を論理的に考察する力を養うとともに、物理学の雰囲気を感じとる。	A		
		・生徒のより深い理解を目指し、I C T 機器を活用したわかりやすい授業を展開していく。	A		
保 健 体 育	1 各種運動の合理的な実践を通しての運動技能の向上	・I C T 教材や視聴覚教材を用いることで、生徒が興味・関心を持ち、自ら健康・安全について理解を深められるようにする。	A	A	・基礎的な事項の理解と定着に力を入れる。 ・各種目において、技能差があるため、生徒一人ひとりに応じた課題を設定し、個別指導の充実を図る。
		・ノートを毎学期末に提出させ、学習習慣や理解度を確認する。	A		
		・球技（サッカー・ハンドボール・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・テニス・ソフトボール・卓球）、武道（柔道）、水泳、陸上競技（マラソン）、体づくりの様々な運動を行い、技能を高める。	A		
	2 運動の楽しさや喜びの会得	・自らの体力・技能を知り、自らが課題をみつけ、課題解決のための学習計画を立てることができるようにする。	B		
		・マラソン大会に向け、1 ヶ月間程度、持久走を行うことにより、体力の向上を図る。	A		
	3 体力の向上及び公正・協力・責任の態度の育成	・準備運動・整理運動を徹底し、自己の体調管理ができるようにする。	A		
		・個々へ役割を与え、集団の一員として公正・協力・責任等の態度を育てる。	B		
		・場の設定や器具・用具、ルール工夫により学習効率を上げる。	B		
	4 生涯を通じて継続的に運動ができる資質・能力の育成	・活動場所・用具の点検を行うことで安全面の配慮ができるようにする。	A		
		・ノートを毎学期末に提出させ、理解度を確認する。	A		

別紙様式 2 (高)

音楽	1 幅広い音楽活動による生涯を通じて音楽を愛好する心の育成	・歌唱・器楽・鑑賞・創作の分野について、幅広く学習実践する機会を設ける。	A	A	・単元毎に小テストを設け、基礎的な知識の定着を図る。 ・言語活動に力を入れ、音楽鑑賞で感じたことや考えたことをグループで発表する等の機会を充実させる。
		・曲をじっくりと味わうことができるよう、ワークシートで鑑賞能力を高める。	A		
	2 基本的な読譜力・表現力の育成	・曲の理解やアンサンブルの楽しさを通して、音楽を愛好する心を育てる。	A		
		・基本的な知識及び技能を習得し、個別最適な反復練習をする機会を設ける。	B		
	3 音楽を伝統や文化、歴史的な側面から理解する資質・能力の向上	・表現及び鑑賞の領域において、ワークシートを使用し、曲の背景や作曲家の意図を理解し、感じ取る力を育む。	A		
		・多様な文化に触れる機会をもち、良さを味わう活動を行い、批評する力や表現力を獲得する。	B		
	4 音楽活動を通して主体的・対話的に活動する力の育成	・個々の音楽経験や技能に応じた目標を設定し、個別最適な学習を行う。	A		
		・音楽のグループワーク・演奏活動において、対話的・協働的な力を育む。	A		
書道	1 基本的書写能力の向上及び興味・関心の育成	・題材に応じた補助資料を作成し、基本的な用筆法等の知識、技能の定着を図る。	A	A	・生徒の一人ひとりに応じた目標設定をし、個別指導の充実を図る。 ・鑑賞における効果的な活動の仕方を考え、充実を図る。
		・生徒一人一人の個性や技能を考慮し、最適な個別学習を徹底する。	B		
	2 書に親しみ愛好する心の育成及び表現能力の向上	・実用的な書に取り組ませ、書に対する興味関心を高める。	A		
		・3年次では、卒業制作として折帖の作成をする。	A		
	3 鑑賞能力の向上	・題材ごとに鑑賞する機会を設け、思考力・判断力・表現力を養う。	A		
		・石碑や本、新聞のタイトル等の身近な書を教材に採り入れることで、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	B		
英語	1 4技能の指導の充実	・効果的に主体的・対話的で深い学びの実現を図るためにアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開をする。	A	A	・ICT活用のさらなる工夫を図る。 ・検定受検者及び合格者の増加に向けて手だてを検討する。 ・指導計画を見直し、効果的に運用する。 ・提示する課題の工夫。
		・ALTを積極的に活用し、クラスルームイングリッシュを用いた授業を積極的に行う。	A		
		・3年間を通して「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をバランスよく習得する英語科グランドデザインを立案・実施する。	B		
	2 基礎学力向上及び学習の定着	・定期的な小テストの実施等を通して、既習事項を繰り返し学習し、知識及び技能を確実に定着する。	A		
		・生徒の実態に合わせた課題を定期的に配布することで、家庭学習の習慣を身につけられるようにする。	B		
		・生徒の実態に合わせた個別最適な学習と協働的な学習の両立を図る。	A		
		・ICTを活用し、授業理解の促進を図るとともに、スモールステップで達成感を味わう活動を取り入れる。	A		
	3 資格取得の奨励	・英検受験の奨励と合格者の増加に向けた課外等の指導の充実を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

家庭	1 基礎知識と技術の定着	・ I C T教材を活用し、きめ細やかな支援を日々心掛け、確かな知識と技術の習得を図る。授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かせるよう、ひとりひとりが活躍できる場を提供する。	A	A	・授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かすことができるようにする。 ・ I C T機器を積極的に活用した授業実践を図る。 ・生徒の実態に応じた目標を立て、個別指導の充実を図る。
	2 安心して学べる環境づくり	・包丁や裁ちバサミ等実習道具の扱い方等の知識及び技能を習得するとともに安全管理を徹底する。	A		
		・教科等横断的な様々な体験を通して、生徒達が得た「知力」「体力」「感性」を十分に使いこなせる場面を、授業において設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	B		
		・日々教材研究に努め、官公庁からのデータの使用等、正確かつ最新の情報を授業に取り入れる。	A		
	3 地域との連携	・学校家庭クラブ活動を通して、地域との連携を図る。	B		
情報	1 情報社会についての理解	・情報社会に潜む危険性を理解する。	A	A	・プログラミングに必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施する。
		・情報社会のモラルを理解し、コンピュータを扱う上でのルールやマナーを理解する。	A		
	2 コンピュータについての理解とその活用	・コンピュータの使用方法を理解する。	B		
		・社会生活におけるコンピュータの利便性を理解し、活用できるようにする。	A		
	3 インターネットについての理解とその活用	・インターネットを安全に使う方法を理解する。	B		
教務部	1 学習意欲の向上	・学習指導方針のさらなる改善を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を進める。	B	A	・ I C Tを通して、生徒にとって「分かる授業」を行うために、より効果的に授業実践できるように取り組む。 できる機会を設ける。
		・ I C T活用による教育活動を促進し、効果的な授業を実践する。	B		
	2 校内研修の充実	・観点別評価や I C T活用などの課題に即した研修会を充実させる。	B		
	3 広報活動の充実	・本校の特色や魅力を積極的に中学生に P R するため、進学フェアへの参加などを通して学校説明会の充実を図る。	A		
	4 G I G A スクール事業に関する教員の資質能力向上	・ Google Classroom をはじめとした授業アプリケーションの効果的利用法を検証すると共に、1 人 1 端末のタブレットを利用した授業の展開を図る。	B		
		・教員の I C T 機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A		
	5 G I G A スクール事業に関する生徒個人アカウント・MAC アドレス等の管理	・新入生の MAC アドレス及び、在校生の機種変更等に伴う MAC アドレスの変更処理を適切に行う。	A		

		・生徒の教育情報ネットワーク、MSアカウント、学びポケットアカウントの年度更新処理、移動処理、変更処理等にできるだけ俊敏に対応する。	A	・MACアドレスやアカウント登録処理が煩雑になるため、担当者の継続について事前に相談・保護者との電話連絡が困難なため、Classroom等の利活用を推進する。 ・1日の平均利用者数は前年比228%、貸出冊数は前年比188%とどちらも増加した。 ・図書委員会活動の充実、読書週間の実施方法の検討によるさらなる図書室利用の活性化を目指す。
		・生徒のICT機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A	
	6 施設・備品等の管理	・校内のコンピュータとその関連機器および視聴覚機器を管理して、校務に支障が出ないように運用する。	A	
		・校内無線ネットワークの維持管理	A	
	7 緊急情報メールの管理	・緊急情報メールの送信依頼には、即時対応する。	A	
		・定期的に緊急情報メールの登録者をチェックし、登録を促す。	A	
	8 ホームページの管理	・更新依頼には速やかに対応し、最新の情報を表示する。	A	
		・更新されていない情報等の更新を促し、必要のない情報は削除する。	A	
		・情報倫理に配慮して、適正に管理する。	A	
	9 図書館の充実	・教科等横断的な学習活動や個別最適な学習が行いやすいように、図書館内の環境を整える。	A	
		・探究を軸とした学びのスタイルのために、図書館としてできることを考え、できることから実行する。	B	
		・リクエストを募り、利用者のニーズに合った本や読ませたい本を揃える。	A	
		・新聞や雑誌、図書の管理や整頓、保管を行い、利用上の便宜を図る。	A	
	10 読書の普及と推奨	・個に応じた教育と学力の定着のために、機会を捉えて読書を推奨する。	A	

別紙様式 2 (高)

生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣の育成を図り、遅刻 0 チャレンジマッチ週間及び服装指導強化週間を実施する。	A	A	・基本的生活習慣を確立させる。 ・S S Wを有効に活用して、生徒を支援する。 ・さらに教員間の連携を深め、生徒支援を行うことで、いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図る。
		・思いやりの意識や社会性を身につけさせることを目的とし、挨拶運動を推進する。	A		
		・社会の一員としての自覚と責任の育成を図るために、授業・集会等に臨む姿勢を丁寧に指導する。	A		
		・正しい制服の着用および容姿を整えさせるなど、学校生活の中で挨拶・礼儀作法・遅刻防止等の基本的な生活習慣を身につけさせる。	A		
	2 自己指導能力の育成と問題行動の未然防止	・自転車の施錠や個人の私物の管理を呼びかけ、自己管理能力を育成する。	B		
		・社会生活における服装容儀の大切さについての理解を深めるために、学年集会等で正しい制服の着こなし方についての支援を実施する。	A		
		・登下校状況の把握と交通マナーの向上を目的として登校指導や下校指導を実施する。	A		
		・問題行動の未然防止を図るために、休み時間等の校内巡回指導を通して生徒の活動の様子を把握する。	B		
	3 健康教育・生命尊重教育の重視	・喫煙や薬物の害に関する講話を実施し、喫煙や薬物使用を防止する。	A		
		・保健厚生部と連携をはかり、生徒の心のケアと教育相談を充実させる。	A		
	4 交通安全・情報教育の推進	・SNS講習会を実施し、インターネット上でのトラブルを未然に防ぐ。	A		
		・交通安全講話や登下校指導を実施し、交通安全についての意識を高めるとともに、事故防止を図る。	A		
	5 いじめの未然防止・早期発見・早期解消	・生徒の自己指導力・自己有用感・規範意識を高めることで、いじめの未然防止を図る。	A		
		・保護者・生徒が学校に相談できる関係の構築と、複数の相談窓口を周知し、いじめの早期発見を図る。	A		
		・適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをして、いじめの早期解消を図る。	A		
		・保護者・地域・警察等の関係機関との連携を強化し、学校外でのいじめに適切に対処する。	A		

別紙様式 2 (高)

特別活動部	1 シティズンシップ教育の推進と生徒自身による主体的・自律的活動スタイルの確立	・生徒会が主催する学校行事について、生徒会が中心となって計画・立案・運営していく自治的、協働的な活動を支援する。	A	A	・体育祭や文化祭を全校開催することができた。今年度の反省を次年度に生かす。 ・キャリア講演会等を実施し、新聞等に掲載されるなど反響が大きかった。今後は折に触れて振り返りを実施し、自身のキャリアプランを考えさせる。 ・生徒会の情報交換会への参加を継続し、よりよい生徒会活動を模索していく。
		・体育祭、文化祭、野球応援においては、実行委員会を中心に企画・運営する。	B		
		・委員会活動を活発にするため、定期的に委員会を召集し、話し合いを行う。	A		
		・各学校の生徒会と連絡し合い、行える行事を増やす。	B		
		・生徒会が主催する学校行事について、生徒会が中心となって計画・立案・運営していく自治的、協働的な活動を支援する。	A		
	2 部活動のさらなる活性化	・1年生を対象とした部活動紹介及び各部毎の部集会を実施し、主体的な参加を支援する。	A		
		・県外大会出場の際には、生徒会・応援委員を中心に壮行会を実施する。	A		
		・中学生説明会等で、本校の活動のPRを積極的に行う。	A		
		・各部活動の結果を掲示板等で報告し、励まし合うことで有用感を高める。	A		
	3 キャリア・パスポートの積極的な活用	・各ホームルームにおいて振り返りを行い、現在の生徒の力を確認した上で、今後に向け必要な事を考える時間を設ける。	B		
		・生徒自身が今後の進路を意識し、社会で活躍する将来の姿をイメージ出来るような資料を提示するなど、活用しやすい工夫をする。	A		
	4 地域住民に愛される「地域とともにある開かれた学校」づくり	・生徒会を中心に、学校付近の清掃活動等のボランティアを積極的に行う。	B		
		・各部活動においても継続して、学校付近の清掃活動を行う。	B		
		・保護者、学校評議員、地域住民等に、積極的に生徒会活動を公開する。	A		
進路指導部	1 生徒一人一人の進路実現	・高校生活で蓄積した知識や経験を生かし、個々にとって最適且つ社会貢献を見据えた進路を実現する	A	A	・サポートティーチャー3名が、小論文・面接指導等で貢献してくれた。来年度もHPや卒業生への募集を継続させたい。
		・進路行事や校内外活動を通して、早期から進路意識を育成する。	A		
		・可能性や適性を自認できるよう、行事の振り返りや面談等の機会をつくる。	A		
		・教科と連携して資格検定等の受験を促し、進路実現と学力向上を支援する。	A		
	2 個々の特性を育てるキャリア教育の充実	・オープンキャンパス・高大連携講座・本校主催「1日1大学説明会」等での最新の情報収集を促し、学問への興味関心を喚起する。	A		
		・本校主催「公務員講座」やガイダンス等を通して、望ましい勤労観や職業観、社会貢献の精神を育成する。	A		
		・サポートティーチャーと連携し、外部との交流で知識の幅を拡大する。	A		
		・「卒業生合格体験発表会」を実施し、多様な進路についてイメージさせる。	B		

		・体験的活動やボランティア、インターンシップ等の機会を紹介し、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、多様な人々との協働を推進する。	B		・看護体験に比べ、企業へのインターンシップや公務員講座への参加が少なかったため、さらに多様な情報発信を工夫したい。
	3 選抜試験への万全な支援体制	・進路だよりや「進路の手引き」等を発行し、進路選択のための情報を発信する。	A		
		・模擬試験受験の環境をととのえ、大学・看護医療系・公務員志望者を支援する。	A		
		・3 学年と連携し、志願先に応じた受験対策を学校全体で協力する体制を形成し、試験本番に最善の状態に臨めるよう支援する。	A		
保健 厚生 部	1 自己健康管理意識の育成	・手洗い、手指消毒の呼びかけを行う。	B	A	・スクールカウンセラーの増員。 ・コロナ、インフルエンザ以外での感染症も増えたので注意喚起を継続する。 ・ゴミの分別はほぼできているので、ポイ捨て等のマナー違反の指導を充実させる。 ・避難訓練時の講話・実演の精選。
		・教室内の照明や換気等の教室環境を、保健厚生委員会の仕事と位置づけ、活動を活性化する。	A		
	2 環境美化意識の育成	・ゴミ分別の徹底、ゴミ置き場への提出を通じて、環境美化意識を高める。	A		
		・大掃除・ワックスがけ等を通して、環境美化意識を高める。	A		
	3 防災意識の育成	・年 2 回の避難訓練を通して、防災意識を高める。	A		
		・日頃から出火の防止に努め、消火器具等防火用品を準備しておく。また、家具類の転倒防止や窓ガラス等の落下防止を図る。	B		
	4 教育相談の円滑な運営	・生徒ひとりひとりが、安心・安全な学校生活を送れるよう、職員・保護者・学校カウンセラーとの情報を共有し、連携を密にする。	A		
		・学校外の関係機関との連携のための調整及び連絡を密にする。	A		

別紙様式 2 (高)

渉外部	1 P T A行事・事業計画の充実	・ P T A総会や評議委員会等の行事を企画・運営する。	A	A	・学年合同の P T A 行事として、生涯学習講演会を実施することができた。 ・高 P 連大会や研修会に参加し、学んだことがらを校内 P T A 行事に生かすことができた。 ・同窓会活動への協力を継続する。
	2 広報委員会の運営と充実した活動	・ P T A 会報用の写真撮影活動を充実させ、委員の積極的な参加を図る。	A		
		・ P T A 会報の紙面構成及び内容を検討し、年 2 回発行する。	A		
	3 研修委員会の運営と充実した活動	・ P T A 研修視察を企画し、P T A 会員の研鑽に寄与する。	A		
	4 各種大会への積極的参加	・ 関東高 P 連大会・全国高 P 連大会に参加し、関東・全国の P T A との連携を図る。	A		
		・ 研修会への参加を通じて、本校 P T A 活動の改善に活かす。	A		
	5 同窓会活動への協力	・ 同窓会入会式を開催するなど、本校同窓会の活性化を支援する。	B		
第一学年	1 基本的生活習慣の確立	・ 食事や睡眠等の規則正しい生活を送り、継続することでルーティンを確立する。	B	A	・入学当初よりも、規範意識を持ちながら学校生活に慣れようとする姿が見られた。 ・学年集会や行事を通して高校生らしさや人間的成長を促せたのではないかな。 ・生徒対応など、状況によっては外部機関との連携を積極的に行う必要がある。
		・遅刻者数の減少を目指しながら、基本的生活習慣の確立及び信頼関係の構築に繋げる。	B		
	2 基礎学力の向上	・小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着を図る。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
		・進路への意識を持ちながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦する。	A		
	3 人間力の育成	・相手の立場になって物事を考えられるような声かけをしていく。	A		
		・他者と人間関係の課題を見いだし、合意形成を図ることや意思決定ができるよう H R や学年集会などで働きかけていく。	A		
		・母校となる自分の学校に誇りを持てるよう、全ての行動に責任を持つ。	A		
	4 進路実現を見据えた意識	・生徒一人ひとりの特徴や長所を客観的に捉え、それを進路目標に繋げられるようにする。	A		
		・キャリアパスポートなどを活用し、自己の振り返りと成長を促す。	A		

第二学年	1 基本的な生活習慣の確立	・ 服装や頭髪の指導を徹底し、身だしなみを整えようとする姿勢を育む。	B	A	・ 次年度も引き続き、普段から生徒の様子を観察し、面談・相談や保護者との連携・協力に努め、信頼関係構築を図る。 ・ 多岐にわたる進路活動に向けて、多様な進路選択があることを学ばせる進路指導を実践する。
		・ 遅刻指導に力を入れ、基本的な生活習慣を徹底する。	B		
		・ ホームルームや学校行事を通して、自己の役割を自覚し、主体的・自治的な活動 をすることでクラス内での連携を深める。	A		
	2 基礎学力の向上	・ I C Tを活用し、個別最適化した学習を提供することで知識及び技能の習得を図る。	A		
		・ 思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を行い、主体的に学ぼうとする姿勢を育む。	B		
		・ 定期考査や小テストの成績不振者へのフォローをし、誰ひとり取り残さない教科指導の実現を図る。	A		
	3 人間関係形成力の向上	・ ホームルームや学校行事を通して、自己の役割を自覚し、主体的・自治的な活動を行うことでクラス内での連携を深める。	A		
		・ 個人面談や日常的な会話等を通じて、話を聞く態度や場に応じた受け答えができるコミュニケーション能力を養う。	A		
		・ 修学旅行などの行事を通して人を思いやる心を身につけさせ、自身の心身を豊かにする。	A		
	4 進路意識の向上	・ 進路に関するガイダンスや活動を充実させ、進路研究を行うことで進路実現に必要な能力を自覚する。	A		
		・ 将来の進路実現を見据え、受信力・発信力を身につける。	B		
		・ 基礎力診断テストや模擬試験の事前、事後の指導を行い、進路実現に向けた学力を身につけようとする態度を育む。	A		
		・ 検定試験や体験講座への積極的な参加を促し、職業観や進路意識の高揚を図る。	B		

第三学年	1 基本的生活習慣の確立	・食事や睡眠等の規則正しい生活を送り、継続することでルーティンを確立する。	B	A	・進路実現に向けた見通しを立てさせ、計画的に臨ませることで成果を上げることができた。 ・礼儀やマナー、人間力向上を大切に、学年全体で取り組んだことで、生徒の自立、成長につなげることができた。 ・欠席や遅刻に対する意識を向上させる。
		・遅刻者数の減少を目指しながら、基本的生活習慣の確立及び信頼関係の構築に繋げる。	B		
		・挨拶や礼義等の社会人としての適切なマナーを身につける。	A		
	2 基礎学力の向上	・小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着をはかる。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
		・進路への意識を持ちながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦する。	A		
	3 人間力の育成	・相手の立場になって物事を考えられるような声かけをしていく。	A		
		・他者と人間関係の課題を見だし、合意形成を図ることや意思決定ができるよう、ホームルーム、学年集会や探究の時間等で働きかけていく。	A		
		・母校となる自分の学校に誇りを持てるよう、全ての行動に責任を持つよう促す。	A		
	4 進路実現を見据えた意識	・生徒一人一人の特徴や長所を客観的に捉え、それを進路目標につなげられるようにする。	A		
		・“人”を大事にできる人間の育成を目指す。常に感謝の気持ちを忘れず、物事を前向きに捉えられるような取り組みを、道徳等を活用しながら行っていく。	A		
		・手帳等を活用しながら、自ら考え先を見据えた計画を立てながら行動できるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

事務室	1 安全安心な学校づくり	・長期的な施設整備計画を立て、県への予算要求を行う。	A	A	・引き続き相互のチェック体制を維持し、財務会計の適正な執行に努める。
		・校舎内外の施設設備の目視による点検を行う。	A		
		・不良箇所は速やかに修理修繕を行う。	A		
	2 財務会計の適正な執行	・校内予算を作成し、計画的に物品を購入する。	A		
		・各種法令を遵守し、誤りのない会計業務を執行する。	A		
		・互いの業務をチェックし合い、ミスや不正を未然に防ぐ。	A		

※評価規準： A：目標・方策等を十分に達成できた。
 B：目標・方策等をほぼ達成することができた。
 C：目標・方策等を達成することができなかった。